

広葉樹造林にかかる遺伝的多様性研究会

1. 日 時：平成20年10月15日（水）～10月16日（木）
2. 場 所：白樺ハイツ（富山市亀谷1-10）
3. 出席者：（独）森林総合研究所、茨城県、栃木県、千葉県、神奈川県、新潟県、長野県、岐阜県、静岡県、山梨県、富山県
（11機関、計22名）
4. 会 議
 - (1) 挨拶
事務局長 富山県農林水産総合技術センター森林研究所長 伊藤 巖
（独）森林総合研究所 森林遺伝研究領域長 吉丸 博志
 - (2) 特別講演
「主要広葉樹の遺伝的多様性と遺伝構造」
（独）森林総合研究所 津村義彦

「周辺の天然林個体群と系統が異なるブナを植栽した場合の環境適応性」
長野県林業総合センター 小山泰弘

「予算化にむけた具体的な研究内容と今後のスケジュールについて」
（独）森林総合研究所 吉丸博志

「根粒菌を活用したケヤマハンノキのポット苗の効果的育苗法」
富山県農林水産総合技術センター森林研究所 斎藤真己
 - (3) 協議事項
・ 課題化に向けて検討すべき方向性について
治山・法面など森林周縁部緑化において利用される早生樹種の中には、近縁外来種が利用されている場合が多く、在来樹種集団への遺伝的攪乱および将来的な適応形質の崩壊が懸念されることから、ケヤマハンノキ、ヤシャブシ類、コマツナギ、ヤマハギ等を対象として、国内産と国外産の遺伝的識別法の開発、外来遺伝子の侵略範囲の実態調査、外来および在来集団のフェノロジー（着果性、開葉）の差異、根粒菌フランキアを活用した在来集団の効果的育苗法の開発等を進め、在来集団を用いた緑化の体制作りを目的に相互で連携して取り組むこととした。
5. 現地検討会
富山市有峰自然公園にて、ケヤマハンノキの着花指数に関する検討会と広葉樹林の視察を行った。